

日本生活科・総合的学習教育学会

20周年記念 学会シンポジウム 2011

生活科・総合の本質、これからの展望と期待

創立20周年の節目を迎えた今、本学会の創立理念やこれまでの成果を振り返り、生活・総合の今後の課題や更なる発展を目指す新しい時代の実践や研究の方向性について、参加者全員が熱く議論する場としたい。フロアと共にこれからの10年を展望する。

☆ 日 時 11月20日(日) **午前10時～** (受付9時半～)

☆ 場 所 立教大学 池袋キャンパス

第1部 パネルディスカッションⅠ 「生活科新設熱き思いとこれから」
～若手実践者の問い～ 10:15～11:45

宮本三郎先生・日台利夫先生・倉澤達雄先生が、生活科誕生の際に課題となったことや期待されていたことを振り返り、若手4人(記念事業委員)の実践を基に、生活科(総合的な学習も含む)の在り方、新しい時代の生活科の役割や教育課程上の価値などについて考える。コーディネーターは田村学教科調査官。

第2部 実践報告 「旬の実践を報告」 12:50～14:50

埼玉県・新原秀典先生の生活科「気付き・思考・認識」にかかわる成長単元の実践。東京都・三田大樹先生の総合5年生「探究的な学習の学習過程…思考・判断段階の思考ツール…」の実践。京都府・小林広和先生の中学校総合「地域と連携した横断的・総合的な学習、探究的な学習」の実践。3人の実践報告を基にしたフロアとの意見交換。

第3部 パネルディスカッションⅡ 「これからの展望と期待」 15:00～16:50

『釜石の奇蹟』と報道された生活・総合、特別活動をコアにした釜石市の防災教育。この事実検証も大事だがふるさと再生に向けた学校教育が喫緊の課題であると青笹光一先生(釜石市唐丹小校長)。一方、山之内知行先生は中越沖地震において総合的な学習の時間を展開し、地域に元気を届けるプロジェクトなどを行なった。時代は劇的に動いている。吉田豊香副会長はこれまでの実践から生活科・総合の本質に迫る。寺尾慎一新会長がコーディネーター。

☆ 資料代 千円

☆ 大懇親会も予定しています

☆ 会員以外の方の参加も歓迎